

神奈川大学野球秋季リーグ勝敗表（7日終了時点）

	神	大	桐蔭大	工	大	関東大	商	大	国	大	勝	敗	点
① 神奈川大		●	○	○		○	○	△	○	○	8	1	4
② 桐蔭横浜大	○	●		○		○	○	○	○	○	7	2	3
③ 神奈川工大			●			●	○	○	○	○	4	4	2
④ 関東学院大	●	○		○		○	○	○	○	○	4	4	2
⑤ 横浜商大	△	○	○	○		○	○	○	○	○	4	6	2
⑥ 横浜国大	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	0	10	0

※白抜き数字は確定



神奈川大学野球秋季リーグは13日から最終週を迎え、横浜スタジアムで神奈川大―神奈川工大、桐蔭横浜大―関東学院大を行う。優勝争いは1位神大（勝ち点4）と2位桐蔭大（勝ち点3）に絞られており、王座を射止めるのはどちらのチームか。（矢部 真太、写真も）

神大 桐蔭大 白熱V争い

秋季しあすから最終週

首位を走る神大は勝ち点3、勝が決まる。今春就任した岸監督は、今季連続54度目の優勝を狙う。監督は45歳、1年目で

14年ぶりとなるリーグ連覇を果したい。チームの勢いを支えてきたのが「目の前の一戦に貪欲にいく」という精神を指導員が、つづけている。

2番打者として打率4割1分5厘をマーク。今秋5本塁打を放つ4番打者、同16打点の冨岡ら強力打線の起爆剤を担っている。

大砲復活渡部



好調2番夏井

⑤ 気迫を前面に出したプレーで攻守をけん引する神奈川大の主将夏井
⑥ けがから復活し、好調の桐蔭横浜大の大砲・渡部

先発の重田、百瀬が試合をつくり、エース中野が試合を締める。勝利の方程式も安定感を増した。中野は9試合17回を投げ、自責点0の絶対的守護神。重田も重打の勢いが増し、3勝を挙げて防御率1・65だ。

2位桐蔭大は自力優勝はないものの、最終週に勝ち点を積み取った上、神大と連敗で勝ち点を落とした場合、逆に逆転優勝を果たせる。桐蔭大は2009年春に初優勝してから過去9年間、春秋いずれかで優勝しており、その伝統を絶やさない一心で大一番に臨む。

この秋3発を放ち、打率4割6分9厘の大神田は、今月6日の試合で負傷した。出場するが、その不安を拭くためのプレーがから復帰した大砲・渡部。前週の国大戦で、試合7安打4打点1本塁打と復活。大田田さんに頼ってばかりだった自分から打って勝たせたいと気合は入った。投手陣は今秋3勝ずつの三浦、大城の右腕2人が好調だ。

⑦ 最終週で神大が1勝2敗、桐蔭大が2勝1敗となった場合は、両チームが勝ち点、勝率で並ぶため、プレーオフが行われる。